

地震工学委員会・平成 23 年度第 7 回（通算 145 回）運営幹事会議事録

I. 日時：平成 24 年 2 月 27 日（月） 16:00～18:00

II. 場所：土木学会 B 会議室

III. 出席者

小長井委員長、清野副委員長、秋山幹事長

片岡、清田、山本、吉見（各運営幹事）

IV. 配付資料

- 幹 145-1 (1) 平成 23 年度 第 6 回（通算 144 回）運営幹事会議事録（案）
- 幹 145-1 (2) 平成 23 年度 第 2 回委員会総会（通産第 32 回）議事録（案）
- 幹 145-2 予算の執行状況
- 幹 145-3 小委員会活動
- 幹 145-4 次期定例総会の準備（新任委員、顧問の推薦）
- 幹 145-5 次年度運営幹事会の体制
- 幹 145-6 次回研究会のテーマ
- 幹 145-7 地震記録のダウンロードサイトの準備状況
- 幹 145-8 英文論文集での震災特集について
- 幹 145-9 委員会評価要領の見直しについて
- 幹 145-10 重点研究課題の応募について

V. 議事

1. 議事録（案）の確認

- ・ 資料「幹 145-1(1)、(2)」に沿って議事録を確認し、承認された。

2. 審議事項、報告事項

1) 予算の執行状況について

- ・ 現時点の予算の執行は 1/3 程度で低い。3/20 までに請求書を提出しなければならないので、関係者に周知する。

2) 小委員会活動

- ・ 防災企画委員会の継続を、小委員会担当運営幹事から確認する。
- ・ 24 年度の全国大会研究討論会には、地震被害調査小委員会から企画書が提出されている。津波避難小委員会からも企画書が提出される予定である。

3) 次期定例総会の準備（新任委員、顧問の推薦）

- ・ 次期定例総会は、4/23（月）土木学会講堂で開催する。
- ・ 若い方を委員として受け入れていきたいが、現委員がこのままだと委員の人数が増え続け、総会が成立しにくくなっている。
- ・ 運営幹事会の権限を広げる、メール審議を取り入れることにより、スムーズな運営が可能になるかもしれない。
- ・ 例年通り、新任委員と顧問の推薦の手続きを進めるが、次回の運営幹事会に小長井委員長から今後の地震工学委員会の役割とあり方（案）を提示していただき、討議する。

4) 次年度運営幹事会の体制

- ・ 目黒運営幹事の任期が3月までとなっているが、日本土木史の編集と日本地震工学会との窓口を継続していただくため、任期を延長する方向で調整する。必要があれば、次期定例総会で承認を得る。

5) 次回研究会のテーマ

- ・ 濱野運営幹事から提案のあった、「切迫性のある南海地震と緊急地震速報の徳島道への適用」のテーマで大角恒雄委員に講演していただく。
- ・ 今後、運営幹事会で承認を受けてから、講演者に依頼するようにする。

6) 地震記録のダウンロードサイトの準備状況

- ・ 準備状況および今後のスケジュールを高橋運営幹事に確認する。

7) 地震工学論文集について

- ・ J-STAGE の費用が30万円程度発生するが、請求書が届くのが5月以降となると今年度の予算で処理できない。この場合、来年度の予算で処理する。

8) 東日本大震災報告書について

- ・ 6学会が独自に編集するが、フォーマットを統一し、電子媒体を中心とすることが決まっている。発刊は2012年8月から2016年となる予定。

9) 英文論文集での震災特集について

- ・ 地震工学委員会に求められている、「構造系全体を視野に入れた全体の方向性の提案」の意味を確認する。
- ・ 無理して査読付き論文とする必要はないとの意見があった。

8) 委員会評価要領の見直しについて

- ・ 評価項目の行事参加者に、総会や委員会の参加者数、HP へのアクセス数も加えることを要望する。

9) 重点研究課題の応募について

- ・ 「東日本大震災津波避難における避難遅れに関する要因分析とそのアーカイブ化」の企画については、小委員会名を入れてもらう。

10) 次回幹事会

- ・ 3/30（金）16：00～18：00 土木学会
- ・ 議題は次期定例総会の準備（新任委員、顧問の推薦）、今後の地震工学委員会の役割とあり方等とする。

（作成者：山本）